

伯耆町

西部

伯耆町

二部地区活性化推進機構

<団体概要> (平成 26 年 4 月現在)

住所 〒689-4233
西伯郡伯耆町二部 1562 番地 1
(町立二部公民館内)

設立 平成 11 年 4 月
代表者 会長 田邊 公教
構成員 二部地区住民全員
集落数 14 集落
電話 0859-62-7159 FAX 0859-62-7159



<参考> 二部地区の概要 (平成 22 年国勢調査)

・人口 1,164 人 ・世帯数 384 戸 ▲ 二部地区活性化推進機構活動拠点
・高齢化率 40.2 %



田邊 公教会長

◆◆◆代表者のコメント◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

- ・新規事業に取り組んでいく。
- ・若者との交流をしながら地域の活性化をしていきたい。
- ・特産品の少ない地域なので、経済活動の発展につながる事業を取り入れたい。

主な取組の概要

<総務部会>

- ・会報「野上川の風」を年 2 回発行。
- ・先進地視察の実施。

<産業振興部会>

- ・農作物などの栽培支援。
- ・盆花や農産物の販売イベントを実施。

<住みよい環境部会>

- ・道路や河川の一斉清掃。
- ・不法投棄防止看板の維持管理や巡視。

<趣味と生きがい部会>

- ・料理教室の開催。
- ・花壇づくり。

<健康スポーツ部会>

- ・グラウンドゴルフやカローリング、ペタンク大会の開催。

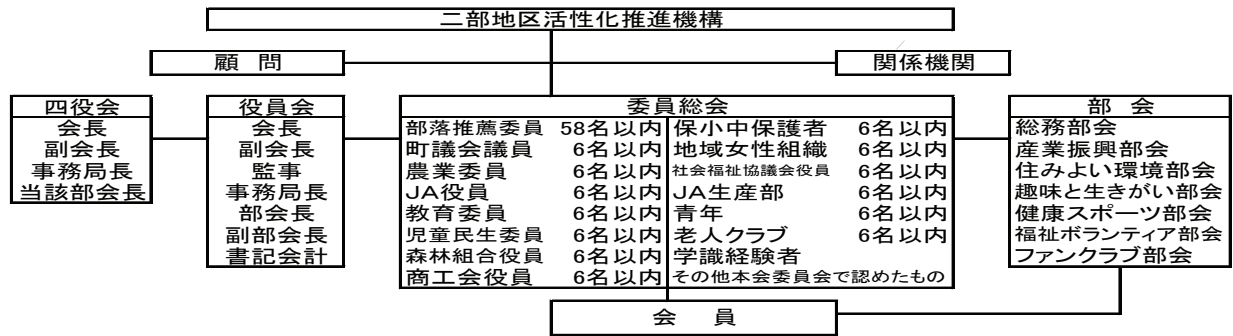
<福祉ボランティア部会>

- ・高齢者や障がい者への活動支援。

<ファンクラブ部会>

- ・ふるさと小包便の発送。

◆ 組織図 ◆



◆ 刊行物 ◆



▲ 広報誌「野上川の風」



▲ 二部地区マップ

◆ 活動写真 ◆



▲ 盆花・農産物販売イベント(産業振興部会)



▲ 野上川ヨシ刈り・集草作業(住みよい環境部会)



▲ 山菜を食べる会(趣味と生きがい部会)



▲ カローリング大会(健康スポーツ部会)



▲ 野外活動へのボランティア協力
(福祉ボランティア部会)

取組に至る背景・経緯・目的

- ・高齢化率が70%を超える集落もあり単独維持が困難なため、新たなコミュニティ組織として、平成11年に全29集落で設立された。その後集落の再編を順次進め、現在では14集落で構成されている。

取組の成果

- ・平成24年に、地域疲弊を打破しようとする当機構の取り組みが評価され、地方新聞46紙と共同通信社が合同で行う第2回地域再生大賞優秀賞を受賞した。

取組に工夫・苦労した点

- ・ふるさと小包便は、毎年新しい商品を開発することは難しいが、送付回数を重ねるごとに発送商品を工夫している。
- ・各世帯から500円の会費を徴収している。
- ・活動がマンネリ化になり新事業を取り入れにくくなっているが、今後は新規事業を取り入れるよう検討したい。

今後の取組内容・長期的な目標

- ・ふるさと小包便は評判がよいが、品物の選定が難しい。新しい商品を入れるよう工夫したい。
- ・若い世代との交流事業を通して、世代間交流を進めていきたい。
- ・女性の意見を取り入れ、女性の活動を支援していきたい。
- ・地区内の住民意識が変わっている可能性があるので再度アンケートを行いたい。



▲ ふるさと小包便(ファンクラブ部会)

西部

伯耆町

日光地区協議会

<団体概要>(平成 26 年 11 月現在)

住所 〒689-4222
西伯郡伯耆町大滝 141-1
(日光公民館内)
設立 平成 19 年 2 月
代表者 会長 木村 修司
構成員 日光地区住民 (177 戸)
集落数 9 集落
電話 0859-63-0306 FAX 0859-63-0306



▲ 日光地区協議会活動拠点

<参考>日光地区の概要(平成 22 年国勢調査)
・人口 542 人
・世帯数 177 戸
・高齢化率 42.1 %



木村 修司会長

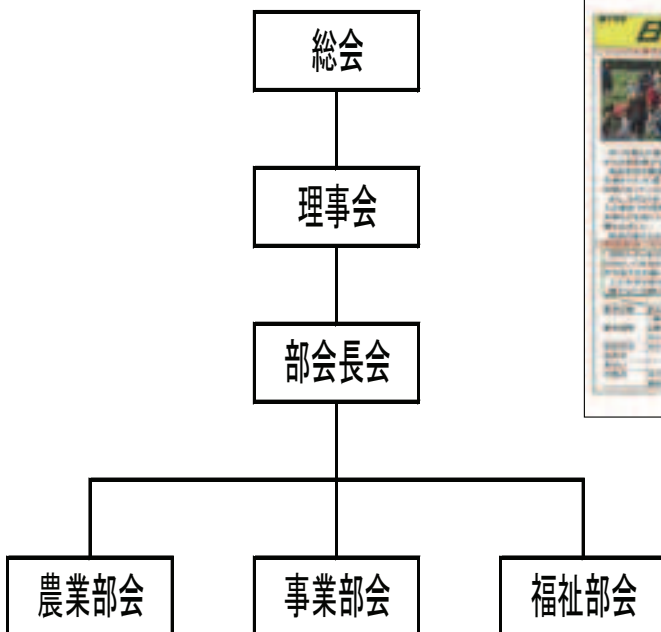
◆◆◆代表者のコメント◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

・地区住民の活性化を図るための取組を行っていきとともに、現在の取組を肉付けしてバージョンアップしていきたい。また、取組内容についても、地域外の方々に情報を発信していきたい。

主な取組の概要

- ・地域住民の親睦を深めるため、大山日光清流まつりを 8 月に開催している。イワナつかみ取りや屋台を地域の方が行い、子どもから大人まで参加している。
- ・米子市義方(ぎほう)校区の親子とまちむら交流を行っている。野菜収穫交流やそば打ち体験をしたり、9 月には日光小学校と義方校区の児童が、中海でゴズ釣り交流を行っている。
- ・日光で獲れた山菜や野菜を業者へ販売し、地元農家の収入に繋げている。また、大山望を通じて地元野菜を東京のアンテナショップや大阪などの大都市で販売している。
- ・荒廃農地対策として、電気柵を設置して牛を放牧し、農地保全を行っている。
- ・平成 25 年度から、鳥取環境大学の学生との交流を始め、地元小学生とのわらび取り遠足、地元女性との郷土料理教室や民泊などを行い交流を深めている。地域住民とのワークショップを行い、日光地区小学校の利活用について意見交換をした。

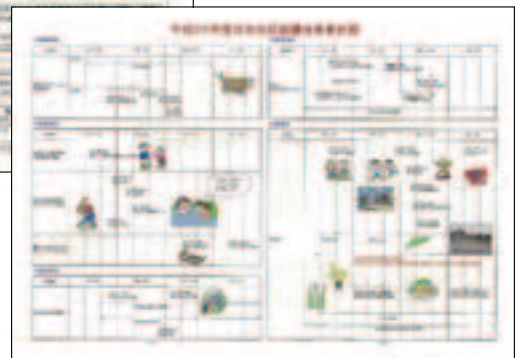
◆ 組織図 ◆



◆ 刊行物 ◆



◀ 日光地区協議会だより



▲ 平成 25 年度日光地区協議会事業計画

◆ 活動写真 ◆



▲ 野菜収穫交流体験



▲ 義方公民館祭出店



▲ 荒廃農地対策(牛の放牧)



▲ 鳥取環境大学生との意見交換会

取組に至る背景・経緯・目的

- ・平成 19 年に、日光公民館と連携して地域の活性化を図ることを目的に設立された。
- ・設立前にアンケート調査を行い、むらづくりや地域づくりについての話し合いを重ねた。
- ・地域住民の融和を図り、潤いと活気ある地域づくりのための活動を行っている。

取組の成果

- ・協議会の（規約）目的でもある「地域の融和」に対する意識が住民の中にもでき、地域が元気になる、活気を取り戻してきた。
- ・運動会などの行事や米子市義方公民館との交流などで、地区内外の交流が深まっている。
- ・学生と交流することで、新たな地域の魅力の発見や、地域住民の活力になっている。

取組に工夫・苦勞した点

- ・地域行事を行うため会費を値上げしたが、それを契機に住民の行事参加への意識が高まり、イベント参加者も増加した。
- ・口コミの効果で、地域内で声を掛け合い行事へ参加していただけるようになった。

今後の取組内容・長期的な目標

- ・平成 20 年 4 月に休園となった日光保育所を「日光交流センター山隠れの里」として、平成 26 年 11 月にオープンした。今後は、食堂や農産物の加工販売を行う地域の交流拠点として活用していく。
- ・平成 28 年度に予定されている学校統合により、日光小学校の跡地利用が大きな課題となっているため、鳥取環境大学の学生の協力を得ながら地区の活性化策を検討する。



▲ 日光交流センター山隠れの里